

# Keiba Global Front Line

## 競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人を紹介致します



### 合田 直弘

8月23日に英国のヨーク競馬場で行われた開催の第3競走に組まれたハンデ戦(芝7F192Y)を、管理馬ボエツソサエティ(セ4、父ボエツヴォイス)で制し、英国におけるデビュー以来の通算勝ち星が4194勝に到達。英国における歴代最多勝調教師となったマーク・ジョンストン(58歳)が、今月のこのコラムの主役である。

従来の記録はリチャード・ハノン・シニアが70年から13年にかけて作った4193勝で、ジョンストンは8月18日に、リボン競馬場で行われた開催の第7競走に組まれたハンデ戦(芝12F10Y)を管理馬ドクターリチャードキンブル(セ3)で制し、この記録に並んでいた。その後は、出走した管理馬が20連敗を喫し、生みの苦しみを味わつたが、リーチをかけてから5日目にして新記録樹立となつた。

実は、4194勝目となつたボエツソサエティは、当該競走ではオッズ21倍の8番人気という伏兵で、鞍上の名手フランキー・デトーリがジワつとハナに立ち、絶妙なペースで逃げて、最後は首差残しての勝利であった。

59年10月10日に、スコットランドのグラスゴウの南10マイルほどの地点にあるベンズヒルという街で生まれたジョンストンは、父が馬主であったことから幼少の頃から競馬に興味を持ち、14歳の時には既に将来は調教師を稼業にしようと決意していたという。

そのために必要な知識を広げるべく、グラスゴウ大学で獣医学を専攻。卒業後獣医師として3年間にわたって勤務している。英国中東部リンカーンシャーのラウスを拠点に開業したのが87年で、この頃から妻のデアドリーさんと一緒に三脚での厩舎運営となっている。

開業3年目の89年から、北ヨークシャーのミドルハムにあるキングスリー・ハウスが拠点となり、今日に至る。270エーカーの敷地に、長さ10Fと6Fの芝の坂路、長さ10Fのオールウェザーの坂路、ブール、トレッドミル、ウォーター・ウォークらを備えたキングスリー・ハウスは、英国でも屈指の調教場の一つと称されている。

92年にマリナパークでアスコットのG3プリンセスマーガレットS(芝6F)を制して重賞初制覇。その後の94年にミスター・ベイリーズでG12000ギニーを制覇し、G1初制覇を果した。その後、年間勝ち星が初めて100の大台を突破。以降、既に189勝(9月12日現在)を挙げている今季まで、25シーズン連続で100勝以上を挙げていることを、ジョンストン師自身は最大の誇りとしている。この間、以降は日本のレースへの参戦はない。現在の管理馬に、G1英ダービー(芝12F6Y)2着馬ディーエックスピー(牡3、父ファーネー)や、G2ダンクンS(芝10F56Y)2着馬ミルデンバーガー(牡3、父デオフィロ)らがいるだけに、久々の来日を期待したいところである。

の座に就いている。

ちなみに年間勝利の自己ベストは、09年と13年にマークした216勝だが、今年はこれを更新するのは確実な情勢だ。

マーク・ジョンストン調教師といえば多くの競馬ファンに鮮烈な印象を残したのが、03年から05年にかけて活躍した牝馬アトラクションだ。生まれながらにして両前脚の膝から下が外に曲がつてお

り、なおかつ、左前は肢先が角度にして20度ほど右に捻じれているという、重大な欠陥を持っていたのがアトラクションだ。他の調教師が預かることを拒んだ同馬を引き取り、英國と愛国心の千ギニー、ロイヤルアスコットのコロネーションなど5つのG1を勝たせたジョンストン師の手腕は、おおいに称賛されたのだった。

G1ドバイシーマクラシック(芝2410m)の前身であるドバイターフクラシックを99年に制したフルーツオーラヴで、99年、00年と2年連続でジャパンCに参戦したが、残念ながら成績は芳しくなく、以降は日本のレースへの参戦はない。現在の管理馬に、G1英ダービー(芝12F6Y)2着馬ディーエックスピー(牡3、父ファーネー)や、G2ダンクンS(芝10F56Y)2着馬ミルデンバーガー(牡3、父デオフィロ)らがいるだけに、久々の来日を期待したいところである。